

3

運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	3-2
ライティングスイッチ	3-5
ヘッドランプレベラー（光軸調整機構）	3-8
方向指示レバー	3-10
フロントフォグランプスイッチ	3-10
ワイパー&ウォッシャースイッチ	3-11
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）	3-14
フロントワイパーデアイサー	3-15
非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ	3-17
ホーンスイッチ	3-17
イルミネーションコントロールダイヤル	3-18

コンビネーションメーター

メーター	3-20
表示灯	3-27
警告灯	3-31

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた	3-39
駐車ブレーキ	3-41

オートマチック車およびCVT車の運転

セレクトレバー	3-42
運転手順	3-46
スポーツモード	3-51
マニュアルモード	3-52
Info-ECOモード	3-54
SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）	3-55

アイドリングストップ

アイドリングストップ（オートスタートストップ）	3-57
-------------------------	------

AWD車の運転

運転するとき	3-63
VTD-AWD	3-64
アクティブトルクスプリットAWD	3-64

クルーズコントロール

クルーズコントロール	3-65
------------	------

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS	3-71
ブレーキブースター（制動力倍力装置）	3-74
ブレーキオーバーライド	3-74
ブレーキアシスト	3-74

VDC

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	3-76
-----------------------	------

リヤビューカメラ

リヤビューカメラの位置	3-82
リヤビューカメラの使用方法	3-83
画面に映る範囲	3-84
距離・車幅マーカ（補助線）	3-85
故障かなと思ったら	3-87

ハンドル

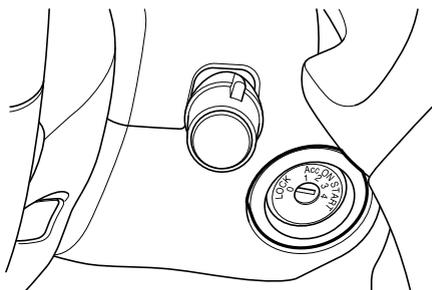
パワーステアリング	3-88
-----------	------

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

☆キーレスアクセス&プッシュスタート 装備車は、2-13ページをご覧ください。

■各位置の働き



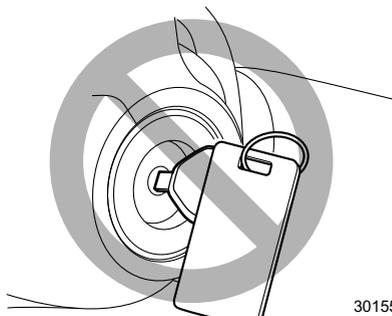
300078

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 セレクトレバーがPにあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリ) 2	エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置 オーディオ、電源ソケットなど
ON (オン) 3	全ての電装品が使用できる位置 エンジン始動後はこの位置になります
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

⚠ 注意

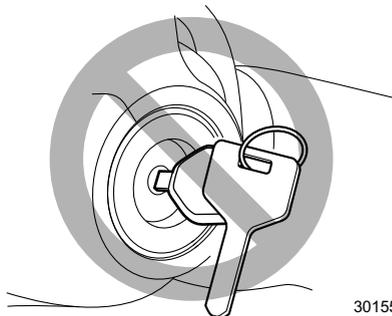
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回してしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重い物をキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



301555

キーグリップに他のキーがかさなっているとき



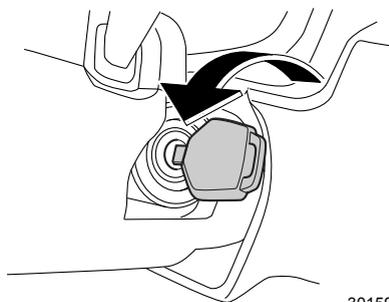
301556

🏠 アドバイス

- エンジンを止めているときは、スイッチをLOCKにしてください。
- 長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

セレクトレバーを **P** にしてキーをLOCKに回してください。



301596

■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。



アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

運転席のドアを開けたとき、エンジンキー照明が点灯します。

エンジンキー照明が点灯しているとき、リモコンキーによる施錠操作をすると消灯します。次の操作のときエンジンキー照明が一定時間点灯し、その後徐々に消灯していきます。

- 運転席のドアを開けて閉めたとき
- リモコンキーによる解錠

●バッテリー上がり防止機能

半ドアなどでエンジンキー照明が点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約20分後に自動的に消灯します。

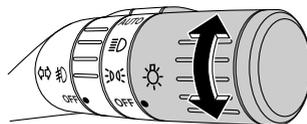
▼バッテリー上がり防止機能のカスタマイズ

バッテリー上がり防止機能の作動あり/作動なしの設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

ライティングスイッチ

エンジンスイッチがONのとき、レバー内のスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



301711

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号表示灯
AUTO	自動点灯または消灯	自動点灯または消灯
☺☺	点灯	
☺☺☺	消灯	点灯
OFF	消灯	

ランプ類が点灯しているときに、以下の操作を行うと自動的にランプ類は消灯します。

- プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしたとき（キーレスアクセス&プッシュスタート装備車）
- キーを抜いたとき（キーレスアクセス&プッシュスタート装備車以外）

自動的に消灯した場合、プッシュエンジンスイッチを押す、もしくはキーを差すと、ランプが再び点灯します。AUTO位置のときは周囲の明るさに応じて点灯します。

⚠ 注意

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。また、車から離れるときは、必ずライティングスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

💡 アドバイス

自動消灯後、電源がOFF、またはキーを抜いた状態のときにライティングスイッチをOFFにしてから再度☺☺☺または☺☺にするとランプが点灯します。

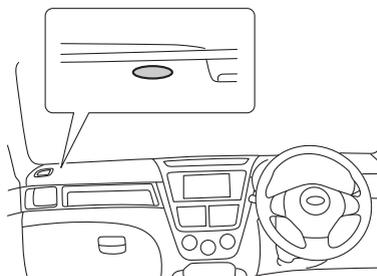
■オートライト

オートライトセンサーは、助手席側インストルメントパネルにあります。

エンジンスイッチがONのとき、ライティングスイッチをAUTOの位置にすると、周囲の明るさに応じて各ランプが点灯または消灯します。

車外が暗くなると、まず車幅灯、尾灯、番号表示灯が自動的に点灯します。さらに暗くなるとヘッドランプが点灯します。車外が明るくなると、逆の順に消灯します。

ランプ類が点灯したとき、メーター内のライティングスイッチ表示灯 DQ が点灯します。



301808

●オートライトの自動点灯・消灯感度のカスタマイズ

オートライトの自動点灯および消灯の感度を、4段階で設定することができます。

☆1-2ページ参照

🏠 アドバイス

オートライト装備車は、次のような特徴があります。

- センサーをふさぐようなものをフロントガラス下部に貼ったり、助手席側インストルメントパネルに置かないでください。正常に作動しない場合があります。
- 昼間に濃い霧などが発生して視界が悪いときでも、自動で点灯しない場合があります。このときは手動で点灯してください。
- スイッチがAUTOの場合、連続したトンネルの出口と入口の間隔が短いときはランプが点灯し続けることがあります。
- スイッチがAUTOの場合でも短いトンネルでは点灯しないことがあります。
- エンジンスイッチがONでライティングスイッチがAUTOのとき、システムに異常があると、周囲が明るい場合でもランプ類が点灯します。この場合はライティングスイッチをAUTO以外にする、またはエンジンスイッチをOFF (LOCK) にするとランプ類が消灯します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- 強い電磁波などにより誤作動することがあります。

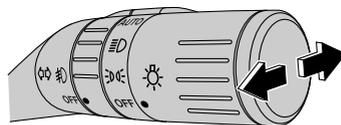
■ランプ消し忘れ警報

エンジンスイッチの電源がOFF、またはキーを抜いた状態でランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

レバーを元に戻すと下向きになります。

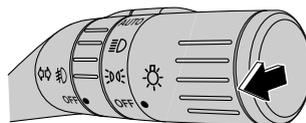


301712

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引くと、ヘッドランプは上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

ライティングスイッチがOFFでも使えます。



301713



アドバイス

自動的にランプ類が消灯した場合、ハイビーム/パッシング表示灯は点灯しません。

ヘッドランプレベラー（光軸調整機構）

■オートヘッドランプレベラー

ヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装備されている車には、自動光軸調整機構がついています。

ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

警告

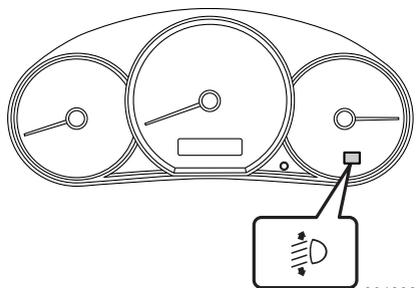
HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。電球の脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

●オートヘッドランプレベラー警告灯

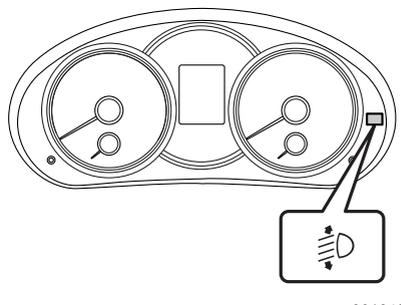
エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

タイプAメーター



タイプBメーター



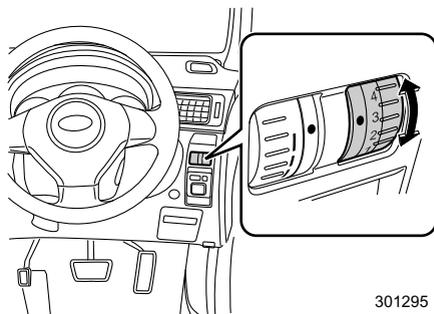
注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■マニュアルヘッドランプレベラー

ヘッドランプにハロゲンランプが装備されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。



301295

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置	フロントシート 乗車人数	セカンドシート 乗車人数	サードシート 乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは 2名	0名	0名	無
1	2名	0名	2名	無
2	2名	3名	2名	有 [※] /無
3	1名	0名	0名	有 [※]
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—

※荷室満載にした場合



アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑をかけることになります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

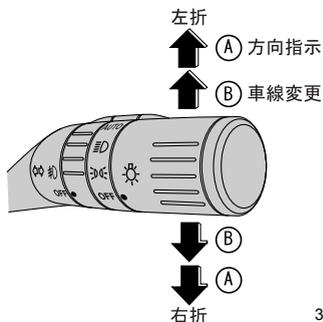
方向指示レバー

エンジンスイッチがON のとき、レバーを ㉑ の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

車線変更の合図をするときは、㉒ の位置で軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

手を離すと元の位置に戻ります。



301714

アドバイス

方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅が速くなります。

すみやかに点検し、電球を交換してください。

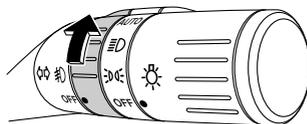
☆6-25ページ参照

フロントフォグランプスイッチ

郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときに使用してください。

メーター内のライティングスイッチ表示灯  が点灯しているとき、スイッチを  の位置まで回すとフロントフォグランプが点灯します。

フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



301715

アドバイス

フロントフォグランプはヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

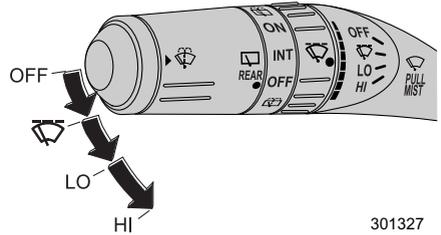
ワイパー&ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

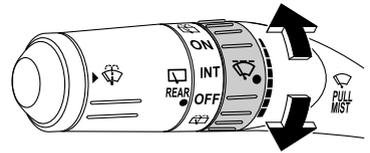
OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



301327

●間欠作動の時間調整

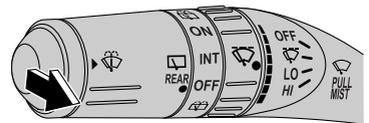
レバーを1段押し下げます。( 位置)
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は9段階に調整できます。
リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。



301328

●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

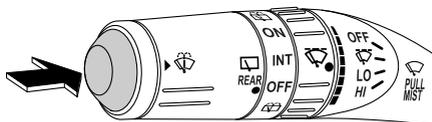
レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。



301141

●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。



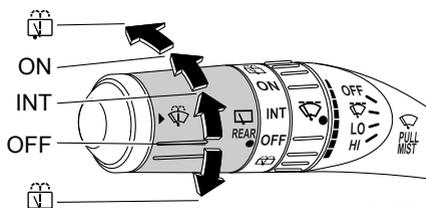
301031

アドバイス

スイッチを押すとワイパーが1～2回動きます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。



301228

 (上側)	ウォッシャー液が噴射します。手を離すとONに戻ります。
ON	連続作動
INT	間欠作動（車速に応じて変わります）
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を離すとOFFに戻ります。

⚠ 注意

ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。

🏠 アドバイス

- ガラスに拭き残しができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。

☆6-22ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドウデフォグガーを使用してください。

☆3-14、3-15ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチを Acc または LOCK (OFF) にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチを OFF にしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。ゴミなどがつまると、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

リヤウインドウデフォグー（曇り取り）

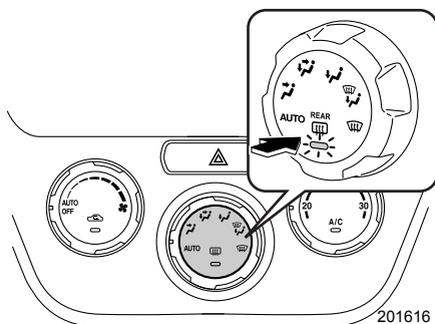
エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。

電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

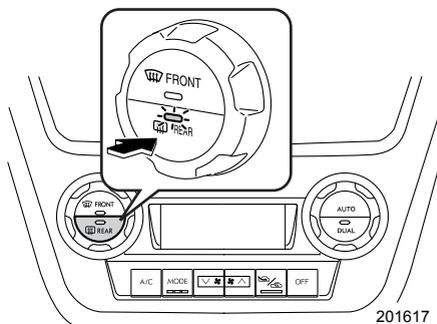
■使いかた

スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯）

タイプA



タイプB



●リヤウインドウデフォグーのカスタマイズ

スバル販売店でリヤウインドウデフォグーを 15分作動 / 連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

🏠 アドバイス

- 消費電力が大きいため長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒーテッドドアミラー装備車は、リヤウインドウデフォグースイッチを押すと、ヒーテッドドアミラーも連動して作動します。

☆2-118ページ参照

- フロントワイパーデアイサー装備車は、リヤウインドウデフォグースイッチを押すと、フロントワイパーデアイサーも同時に作動します。
- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
- 連続作動中にバッテリー電圧が低下すると連続作動は停止します。また、2分間の停止中にバッテリー電圧が低下したときも作動が停止します。

フロントワイパーデアイサー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。リヤウインドウデフォグガーと同時に作動します。

☆3-14ページ参照

フロントワイパーがガラスに凍結しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

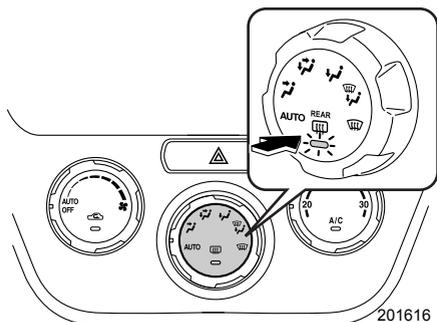
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

■使いかた

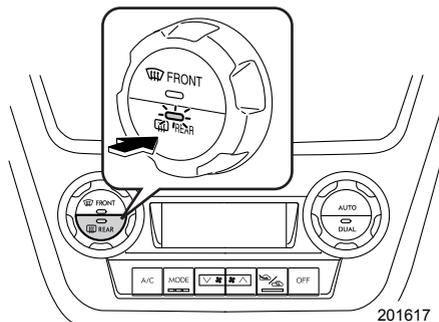
スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。

作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します（表示灯が消灯）。

タイプA



タイプB



●フロントワイパーデアイサーのカスタマイズ

リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズに連動し、15分作動 / 連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

アドバイス

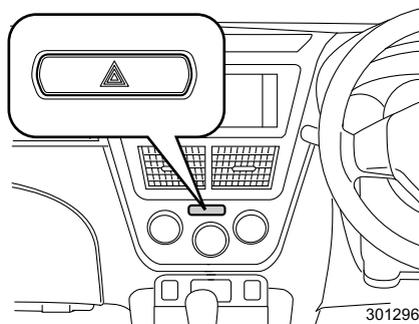
- 外気温度が5°C以上のとき、フロントワイパーデアイサーは作動しません。
- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、下記条件のときには、15分後に停止します。
 - － 外気温度が5°C以上のとき
 - － SI-DRIVE装備車はI（インテリジェントモード）のとき
 - － バッテリー電圧が低下したとき
- 連続作動に設定していても、車速約15 km/h以下の状態が15分間続いた場合、自動的にOFFになります。

非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

スイッチを押すと、全ての方向指示器のランプが点滅します。

故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。



301296



アドバイス

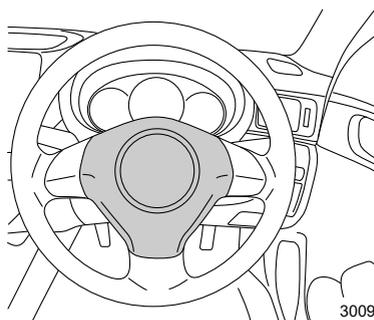
- 非常時にお使いください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

運転するとき

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。

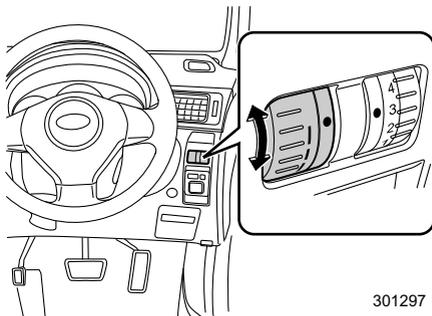


300991

イルミネーションコントロールダイヤル

メーター内のライティングスイッチ表示灯 DQ が点灯しているとき、コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコン、オーディオなどの明るさを調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。



301297



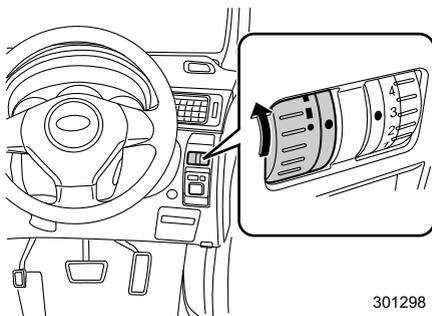
アドバイス

タイプBメーターはライティングスイッチがOFFでも調整できます。

■ ブライト（減光キャンセル）機能

メーター内のライティングスイッチ表示灯 DQ が点灯すると、表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

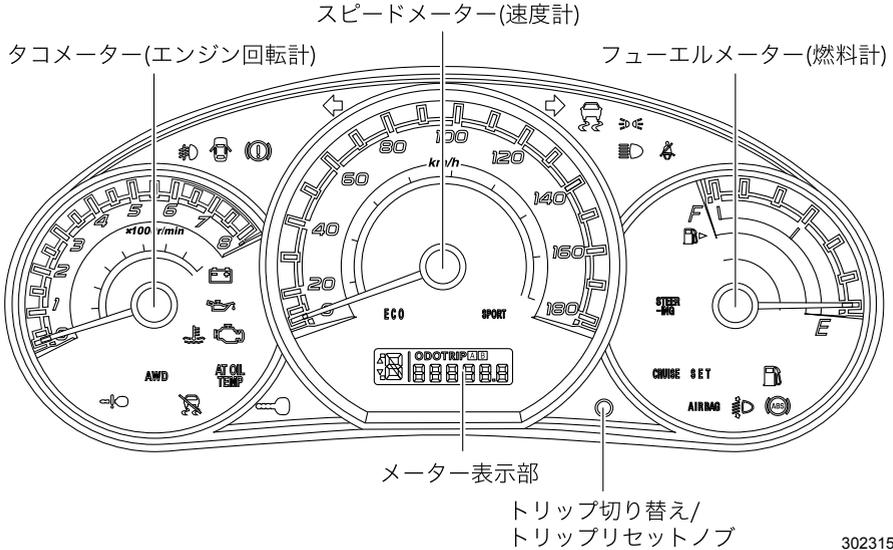
ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



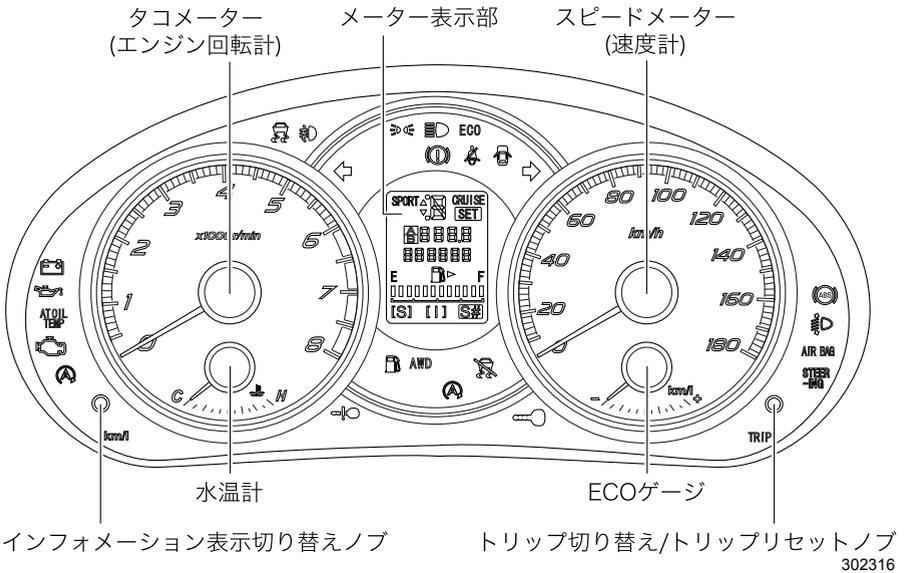
301298

コンビネーションメーター

<タイプA>



<タイプB>



※ 表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードおよび装備により一部異なります。

運転するとき

メーター

■ウェルカム/グッバイ照明 (タイプBメーター)

ウェルカム照明は、エンジンスイッチがOFFの状態では運転席のドアを開けると、メーターの指針が一定時間点灯します。

グッバイ照明は、エンジンスイッチをONからOFFにすると、メーターの指針が徐々に消灯します。

アドバイス

- ウェルカム/グッバイ照明は、エンジンスイッチをONにすると通常の表示に戻ります。
 - キーレスエントリー (キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック) でドアを施錠すると消灯します。
 - ウェルカム/グッバイ照明は作動あり/作動なしの設定ができます。
- ☆3-26ページ参照

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(スイープ機能)

アドバイス

メーターの初期作動(スイープ機能)は作動あり/作動なしの設定ができます。

☆3-26ページ参照

■スピードメーター (速度計)

車の走行速度を示します。

■タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

⚠ 注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

🏠 アドバイス

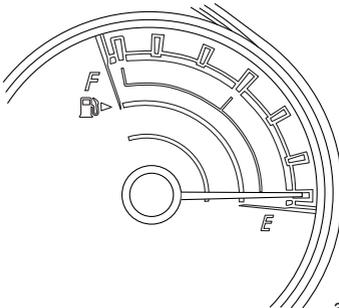
- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針または目盛りが「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-41ページ参照

タイプAメーター



302366

タイプBメーター



301648

⚠ 注意

燃料を給油するときは、必ずエンジンを止めてください。
☆1-27ページ参照

運転するとき

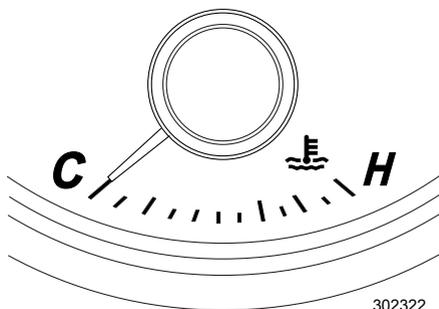
アドバイス

- エンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。ON以外の場合はトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと一定時間、燃料の残量を表示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約15L以下）、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。

■ 水温計（タイプBメーター）

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



302322

注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆7-25ページ参照

🏠 アドバイス

エンジンスイッチがON以外のときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

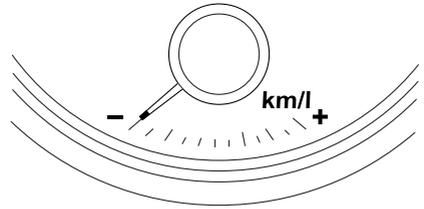
「H」：高温 (HOT)

「C」：低温 (COLD)

を示しています。

■ECOゲージ (タイプBメーター) 🚗

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が良い場合は+側、悪い場合は-側を表示します。



301650

運転するとき

🏠 アドバイス

- ECOゲージはあくまでも目安です。
- 平均燃費は、トリップメーターリセット後、1 km 走行すると表示されます。表示されるまでの間、ECOゲージは作動しません。

■オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。

タイプAメーター

タイプBメーター



301010

301429



アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

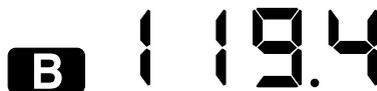
ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。

表示範囲：タイプAメーター … 0.0 km～9999.9 km

タイプBメーター … 0.0 km～9999 km

タイプAメーター

タイプBメーター



301011

301430

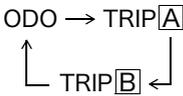
 **アドバイス**

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

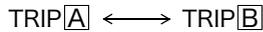
● **オドメーター、トリップA、B切り替え**

トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

タイプAメーター

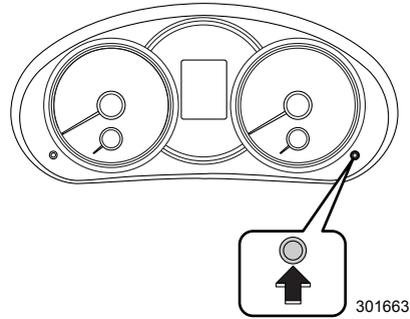
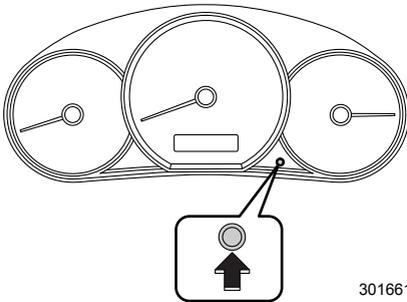


タイプBメーター



タイプAメーター

タイプBメーター



運転するとき

● **トリップA、Bを0に戻すとき**

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し続けると0.0に戻ります。

■メーターの初期作動（スワイプ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は作動あり/作動なしの設定を切り替えることができます。

- ① エンジンスイッチをON以外の位置にします。
- ② トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。
- ③ このときトリップ切り替え/トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。

タイプAメーター



301041

タイプBメーター

S on

S off

301651

■ウェルカム/グッバイ照明の設定のしかた（タイプBメーター）☘

ウェルカム/グッバイ照明は作動あり/作動なしの設定を切り替えることができます。

- ① エンジンスイッチをON以外の位置にします。
- ② トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
指針の初期動作（スワイプ機能）の設定表示の次に、現在の設定が表示されます。
- ③ このときトリップ切り替え/トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。

L on

L off

301652

表示灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅が速くなります。

すみやかに点検し、電球を交換してください。

☆6-25ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが☺☺または☹☹位置時に点灯します。

オートライト装備車は、ライティングスイッチがAUTOのとき、周囲が暗くなると点灯します。



■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。



■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき点灯します。



アドバイス

フロントフォグランプはヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■セキュリティ表示灯



キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で全てのドア（リヤゲート含む）を施錠すると盗難警報装置が監視状態に入り、表示灯が点滅します。

注意

盗難警報装置が作動中、キーを使ってドアを開けるとホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-50ページ参照

●イモビライザー装備車

通常は点滅しています。

次のことを行った場合、表示灯は消灯します。

- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにしたとき（キーレスアクセス&プッシュスタート装備車）
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき（キーレスアクセス&プッシュスタート装備車以外）

注意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。（キーレスアクセス&プッシュスタート装備車以外）

☆2-48ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

ECO

Info-ECOモードスイッチを押してInfo-ECO（インフォ・エコ）モードを選択したとき、またはSI-DRIVE装備車はI（インテリジェントモード）を選択したときに表示灯が点灯します。

☆3-54、3-55ページ参照

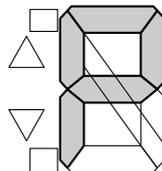
アドバイス

“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。

“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■セレクトインジケータ

セレクトレバーの位置を示します。
☆3-42ページ参照



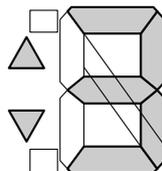
301042

■シフトポジション表示灯

スポーツモードまたはマニュアルモード選択時、図のようにギヤ位置を表示します。

また、マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であることを示す◆印が点灯します。

☆3-51、3-52ページ参照



300995

■SPORT (スポーツ) 表示灯(2.0L CVT車)🏎️

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。

☆3-51ページ参照

SPORT

■VDC作動表示灯

エンジンスイッチONで点灯し、約2秒後に消灯します。

VDC作動時は点滅し、TCS機能作動時は点灯します。

☆3-76ページ参照



⚠️ 注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■クルーズコントロール表示灯

CRUISE

エンジンスイッチONで点灯し、約3秒後に消灯します。
クルーズコントロールのメインスイッチを押すと表示されます。
表示灯が点灯すると、クルーズコントロールシステムの速度をセットできます。

☆3-65ページ参照

⚠ 注意

エンジン警告灯が点灯すると、同時にクルーズコントロール表示灯も点滅します。高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■クルーズコントロール車速セット表示灯

SET

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
クルーズコントロール表示灯が点灯している状態で、任意の速度を設定したときに表示されます。

☆3-67ページ参照

■I (インテリジェントモード) 表示灯

[I]

SI-DRIVEのI (インテリジェントモード) を選択すると点灯します。

☆3-55ページ参照

⚠ 注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■S (スポーツモード) 表示灯

[S]

SI-DRIVEのS (スポーツモード) を選択すると点灯します。

☆3-55ページ参照

⚠ 注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■S#（スポーツシャープモード）表示灯

S#

SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択すると点灯します。

☆3-55ページ参照

⚠ 注意

表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

エンジンが冷えているときは、S#（スポーツシャープモード）を選択しても切り替えができません。この場合ブザーが鳴り、切り替えができないことを運転者に知らせます。

■アイドリングストップ表示灯（タイプBメーター：緑色）



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンを再始動すると消灯します。

☆3-57ページ参照

運転するとき

警告灯

■ブレーキ警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキペダルが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-73ページ参照

⚠ 警告

- 警告灯が点滅し続けたときはシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
- エンジン回転中に駐車ブレーキペダルを解除しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

 **注意**

ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯



エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。運転席シートベルト未着用のまま車速約 20 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

☆2-73ページ参照

 **アドバイス**

このとき車速が約20 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

■半ドア警告灯



エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。

 **注意**

警告灯が点灯したままの状態で行きしないでください。

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-71ページ参照

注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■ AWD警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

AWD

運転するとき

警告

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのバンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装備車）、カーテンエアバッグ（装備車）、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

AIR BAG

警告

- 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
 - － 走行中に点灯したとき
- 警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■ オイルプレッシャー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■ AT油温警告灯

AT OIL
TEMP

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
ATまたはCVTのトランスミッションフルードの温度が高くなると点灯します。

注意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクタレバーを[P]にしてエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT油温警告灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションまたはCVTに異常があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。
エンジン回転中、触媒を損傷する可能性があるため点滅します。



⚠ 注意

- エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン回転中に点滅したときは、触媒を損傷する可能性があります。触媒の損傷を防ぐため、次のことを行ってください。
 - － 速度を落として走行してください。
 - － 急発進、急加速を避けてください。
 - － 急な上り坂を避けてください。
 - － 可能であれば荷物を減らしてください。

上記の処置をしてもエンジン警告灯が点滅したままの場合、または点灯に変わった場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約9L以下になると点灯します。



⚠ 注意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに給油してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

●VDC警告灯

エンジン回転中、VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

●VDC OFF表示灯

VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したときに点灯します。

☆3-76ページ参照

注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチをONにしても点灯しない
 - － エンジン始動後、数分たっても消灯しない
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再び点灯しない
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■オートヘッドランプレベラー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■水温表示灯／水温警告灯



エンジンスイッチをONにすると、約2秒間赤く点灯し、その後消灯あるいは青く点灯します。エンジン冷却水温の低温を示す表示灯（青点灯）と高温を示す警告灯（赤点滅と赤点灯）があります。

●水温表示灯（青色）

水温が低いときに点灯します。水温が上がると消灯します。

●水温警告灯（赤色）

水温がオーバーヒート手前の温度になると点滅し、オーバーヒートになると点灯します。点滅または点灯したときは、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。

☆7-25ページ参照

⚠ 注意

- エンジンスイッチをONにした後、約2秒以上たっても赤く点灯し続けた場合、または赤／青に交互に点灯した場合は、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- 暖機後も水温表示灯（青色）が点灯し続ける場合は、冷却系統などに異常が考えられます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。

■ステアリング制御警告灯

STEER
-ING

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

パワーステアリングモーターなどの過熱を防ぐため、次の場合はハンドル操作力が重くなることがあります。しばらくの間ハンドル操作を控えると、正常の操作力に戻ります。

- エンジンをかけた状態で、ハンドル操作を繰り返したとき
- エンジンをかけた状態で、ハンドルをいっぱいまで回した状態を長く続けたとき

■キー無し警告灯(キーレスアクセス&プッシュスタート装備車)



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
車内にアクセスキーがない場合に点滅します。

☆2-20ページ参照

■アイドリングストップ警告灯/

アイドリングストップOFF表示灯(タイプBメーター:黄色)



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。アイドリングストップシステムに異常があるとき点滅します。

☆3-61ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

☆キーレスアクセス&プッシュスタート 装備車は2-13ページをご覧ください。

■エンジンの始動

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。(Nでも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。)
- ③ 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ④ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

警告

車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になるおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回してください。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹きや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、または水温表示灯（青色）が点灯している間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱい踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない、または水温表示灯（青色）が消灯しない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなるのがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、電装品をOFFにした方が、容易に始動します。
- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。その場合はエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがあります、異常ではありません。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキング音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ エンジンの停止

車両を完全に停止させ、エンジン回転数がアイドリング状態まで下がってから、エンジンスイッチを切ります。

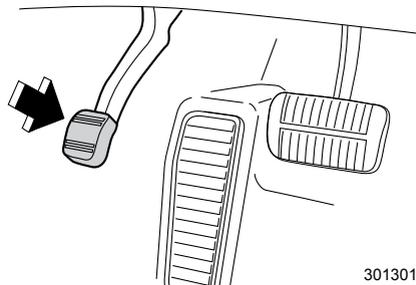
アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転数がアイドリング状態に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキ

■ かけるとき

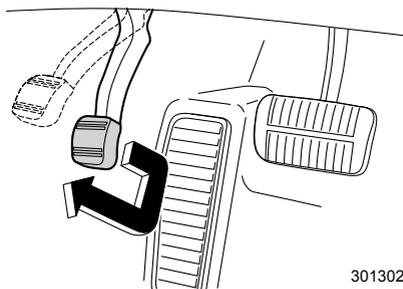
駐車ブレーキペダルを確実に踏み込みます。同時にメーター内のブレーキ警告灯も点灯します。



301301

■ 解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足で駐車ブレーキペダルを「カチッ」と音がするまで踏みます。ゆっくり左足を離し、駐車ブレーキを解除します。解除したときブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。



301302

運転するとき

⚠ 注意

- 駐車するときは車が動き出さないように確実にかけてください。
- 走行するときは、以下を必ずお守りください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
 - － 駐車ブレーキを解除したときは、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。
 - － 足を駐車ブレーキペダルの上に乗せないでください。

オートマチック車およびCVT車の運転

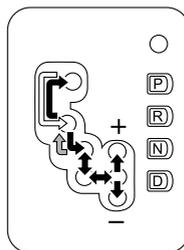
セレクトレバー

■各位置での働きと操作方法

 (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて[P]にしてください。
 (リバース)	後退位置	ブザーが鳴り、運転者に[R]であることを知らせます。
 (ニュートラル)	中立位置	
 (ドライブ)	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。

☆1-12ページ参照

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

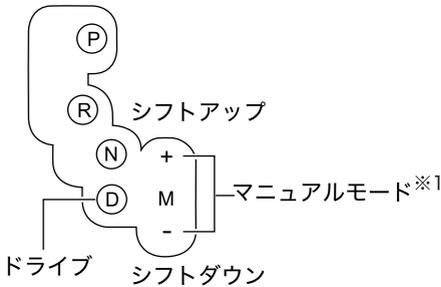


301303

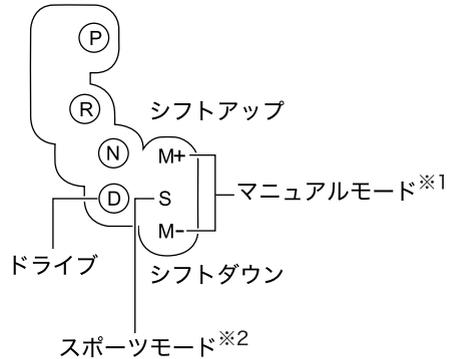
	ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
	そのままゲートに沿って動かします。ただし、エンジンスイッチをAccまたはOFFにした場合は、ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
	そのままゲートに沿って動かします。

●各位置とモード

SI-DRIVE装着車



SI-DRIVE装着車以外



301618

※1 マニュアルモード：3-52ページ参照

※2 スポーツモード：3-51ページ参照

⚠ 警告

発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対に行わないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。
- **P**でエンジンをかけてください。
- **N**でもエンジンはかかりますが、安全のため**P**でかけてください。
- **P**、**R**に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- **P**以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しするとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入れるとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。
- ATフルードまたはCVTフルードの油温が通常時より高い場合、AT油温警告灯が点灯します。

☆3-34ページ参照

運転するとき

■セレクトレバーの操作方法

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- **P**のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCK (OFF) またはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを**P**から他の位置に切り替えられません。

■オートマチック車およびCVT車の制御

セレクトレバーが**D**での走行時、スムーズな走りを実現するための制御を行います。

アドバイス

- 低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- CVT車は急な上り坂の連続運転など、継続的に負荷のかかる走行を行った場合、車両の冷却性能を維持するためエンジン回転数または車速が自動的に低下することがあります。
負荷が低下し、冷却性能を維持できる状態に戻るとエンジン回転数または車速は元に戻ります。

●オートマチック車

- Nコントロール (I 選択時)
車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドル状態でブレーキペダルをしっかりと踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
- 登坂制御
登坂での不要なシフトアップ・シフトダウンを防ぎます。
- コーナリング制御
旋回時の遠心力が大きいつきは加速中でもシフトアップしません。
- ブレーキング制御
(SまたはS#選択時)
コーナーの入り口などでブレーキを強く踏むと自動的にシフトダウンし、再加速性能を高めます。
- アクセル急戻し制御
(S#選択時)
加速中、コーナー手前などでアクセルを急に戻してもシフトアップしません。

●CVT車

- Nコントロール（SI-DRIVE装備車：I 選択時、SI-DRIVE装備車以外：Info-ECOモード 選択時）

アイドリングストップ装備車以外の機能です。

車が完全に停止した後、セレクトレバーが[D]のままアイドリング状態でブレーキペダルをしっかりと踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

- 登降坂制御

走行中の路面勾配による駆動力とエンジンプレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

- アダプティブ制御（SI-DRIVE装備車：SまたはS#選択時、SI-DRIVE装備車以外：スポーツモード選択時）

コーナリングの強さや連続性、アクセル操作などからスポーツ走行と判定した場合は、エンジンを高い回転数に保つことでエンジンプレーキの効きを高め、アクセルを踏んだときのレスポンスを向上させます。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないときできません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、セレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むと、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーが抜けず、またはエンジンスイッチをOFFにできません。

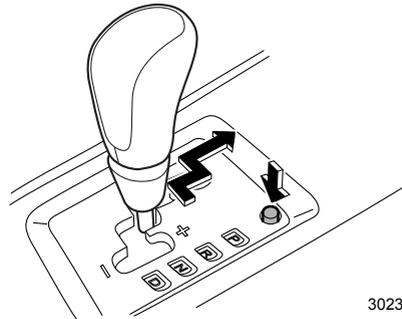
（[P]以外ではエンジンスイッチをAcc※からLOCKまたはOFFにできません）

- [N]でエンジンをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]にしてください。もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。またはシフトロック解除ボタンを押しながら、レバーを[P]に操作してください。

- エンジンスイッチがONで操作できないときは、エンジンスイッチをONからAcc※にし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。（60秒以内）

エンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

※キーレスアクセス & プッシュスタート装備車は、[P]以外でエンジン回転中にエンジンスイッチを押してエンジンを停止させた電源状態がAccになります。



302353

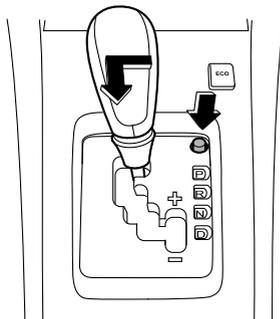
運転するとき

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーをPから動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

- ① ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押し続けます。
- ② セレクトレバーを動かします。



101734

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

運転手順

■エンジンをかける前に

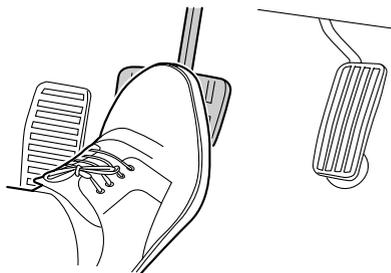
- ① 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2-55、2-115ページ参照

- ② アクセルペダルの位置を右足で確認します。
- ③ ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。
(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



301305

■エンジン始動

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

エンジンは[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

<キーレスアクセス&プッシュスタート装備車以外>

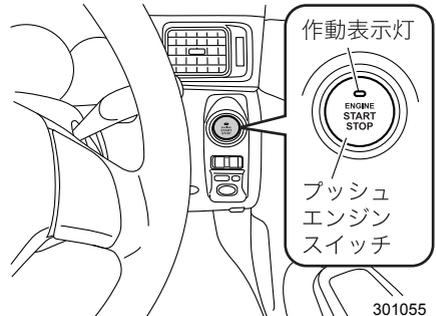
- ③ ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
- ④ エンジンスイッチをSTARTにし、エンジンを始動します。

🏠 アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

<キーレスアクセス&プッシュスタート装備車>

- ③ プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（[N]で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。
- ④ ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。
エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

セレクトレバーは確実にブレーキペダルを踏んで操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D] (前進) または[R] (後退) に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキを解除します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドル回転が高くなり、クリーブ (車が動きだす) 現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-12ページ参照

- 後退するときには車の後方に人がいないこと、障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

- ① 急な坂道での発進は、駐車ブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
- ② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキをゆっくりと解除して発進します。

■ 走行

通常の走行：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-12ページ参照

上り坂では：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

また、マニュアルモードにし、勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。

☆3-52ページ参照

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。マニュアルモードでシフトダウン、またはセレクタレバーが**D**のときパドルシフト（装備車）の \ominus 側レバーを手前に引いてシフトダウンします。

急な下り坂では：

マニュアルモードまたはパドルシフト（装備車）で2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。



警告

走行中はセレクタレバーを**N**にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。



アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキング音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■停車

- ① のままブレーキペダルを確実に踏みます。

注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドル回転が高く、クリープ（車が動き出す）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で 、以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキをかけます。
③ 長時間停車するときは  にします。
④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが  にあることを確認して発進します。

注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、確実に駐車ブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

N コントロール機能が装備されています（アイドルストップ装備車以外）。

- SI-DRIVE 装備車は I（インテリジェントモード）選択時、SI-DRIVE 装備車以外は Info-ECO モード 選択時、車が完全に停止した後、セレクトレバーが  のままアイドル状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
- 再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

■ 駐車

- ① 車を完全に止めます。

⚠ 注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

- ② ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキを確実にかけます。
 ③ セレクトレバーを[P]に入れます。
 ④ エンジンを止めます。

☆1-23ページ参照

⚠ 注意

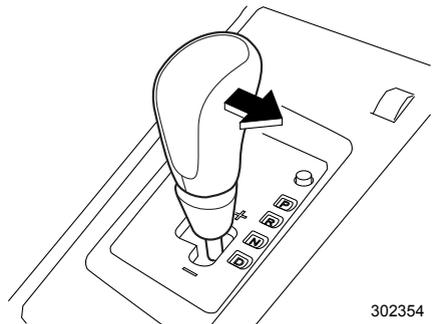
車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。[P]以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

スポーツモード

SI-DRIVE装備車以外の機能です。

山間部での走行または、高速道路の合流および追い越し加速時に適した走行モードです。スポーツモードにすると、変速位置がエンジンの高回転側に設定されます。セレクトレバーが[D]のときレバーをマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードになり、メーター内にSPORT表示灯が点灯します。

☆3-29ページ参照



302354

🏠 アドバイス

セレクトレバーを⊕側もしくは⊖側に操作する（マニュアルモードになります）または、レバーを[D]にすると表示灯は消灯します。

☆3-52ページ参照

マニュアルモード

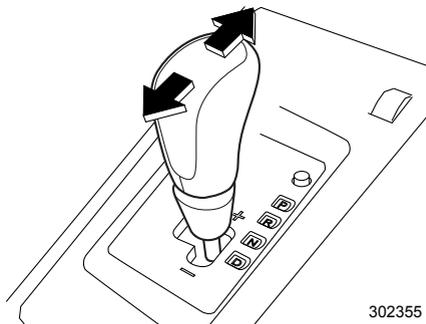
■マニュアルモードの使いかた

SI-DRIVE装備車

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

SI-DRIVE装備車以外

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに動かし、⊕側あるいは⊖側に移動させるとマニュアルモードになります。



302355

🏠 アドバイス

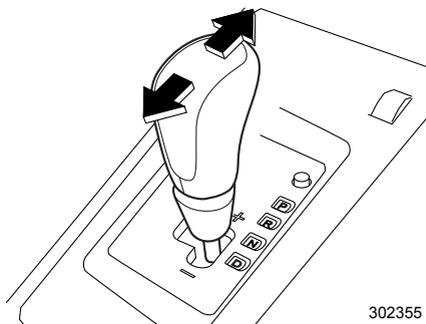
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン付近になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用することをお奨めします。

☆1-20ページ参照

■シフト操作

●セレクトレバー

1段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。

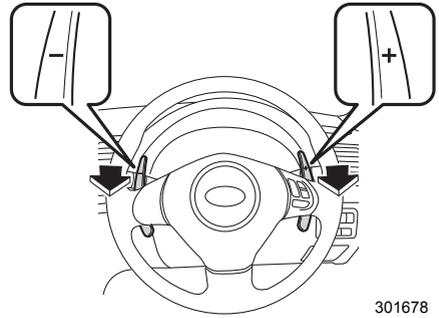


302355

●パドルシフト

右側のレバーが⊕（アップ）になり、左側のレバーが⊖（ダウン）になります。

1段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。



301678

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから[D]の位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、[D]のままパドルシフトで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、シフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。その後しばらく走行すると通常の自動変速モード（[D]）に復帰します。下り坂やカーブの手前など、一時的にエンジンプレーキが必要なときに有効です。

⚠ 注意

パドルシフトのレバーにアクセサリなど物をかけないでください。アクセサリなどをかけるとレバーが不意に動き、シフト操作をするおそれがあります。

🏠 アドバイス

操作時の走行状況により、自動変速モードへの復帰時間が異なります。

運転するとき

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。

ブレーキを踏んだまま、セレクトレバーまたはパドルシフトを⊕側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示灯は2速を表示します。

🏠 アドバイス

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーまたはパドルシフトを⊕、⊖側に操作してください。セレクトレバーを□にすると2速固定は解除され、自動変速モードに戻ります。

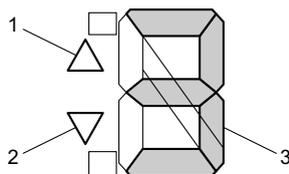
■シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。

シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。

- シフトアップ可能表示灯 (1)
- シフトダウン可能表示灯 (2)
- 変速ギヤ表示 (3)



301048

Info-ECOモード

SI-DRIVE装備車以外の機能です。

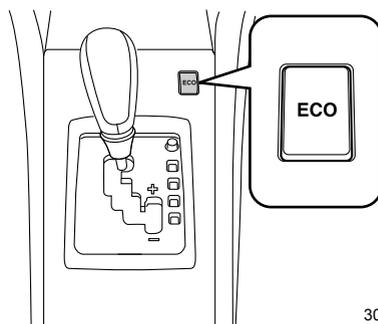
燃費効率を重視したモードです。

Info-ECOモードスイッチを押すとInfo-ECOモードがONになります。

通常走行ではこのモードの使用を推奨します。

Info-ECOモードをOFFにするときは、スイッチをもう一度押します。

Info-ECOモードをOFFにすると、登坂時や積載量が多いときに適した変速特性になります。



302356

☆3-28ページ参照

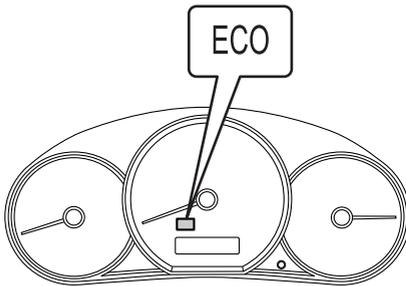
アドバイス

- Info-ECOモードがONのとき、次の操作を行うとInfo-ECOモードが自動的にOFFになります。これらを解除すると、Info-ECOモードが再度ONになります。
 - －スポーツモードにする
 - －クルーズコントロールを作動させる
- ☆3-51、3-65ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

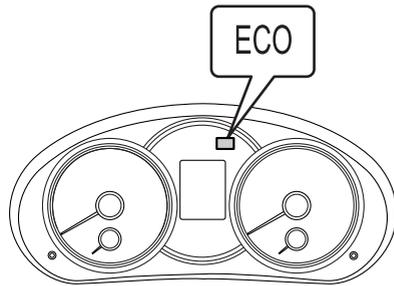
Info-ECOモードがONのとき、燃費効率の良い走行状態になると点灯します。急加速などが必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費効率の良い走りかたができます。

タイプAメーター



302362

タイプBメーター



302363

運転するとき

SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVE[※]は、3つの特性をもった走行モードの、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）、S#（スポーツシャープモード）を選べるシステムです。

I（インテリジェントモード）：

扱いやすさとストレスのない走行性を実現したモードです。通常走行での使用を推奨します。メーターのInfo-ECO表示灯の点灯により、運転者に燃費の良い走行をお知らせします。

S（スポーツモード）：

I（インテリジェントモード）よりも走行性を向上させたモードです。高速道路や登坂時の走行に適しています。

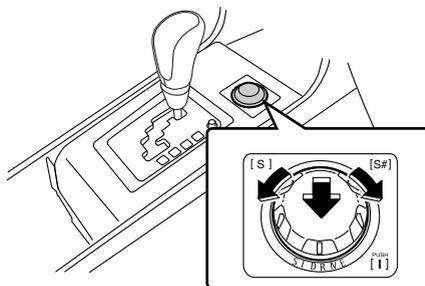
S#（スポーツシャープモード）：

エンジン性能を余すことなく引き出すことができるモードです。山間部での走行、または高速道路の合流および追い越し加速時に適しています。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

●SI-DRIVEセクター

セクターを左に回すとS(スポーツモード)、右に回すとS#(スポーツシャープモード)、押すとI(インテリジェントモード)になります。操作後、セクターは中立位置に戻ります。



302357

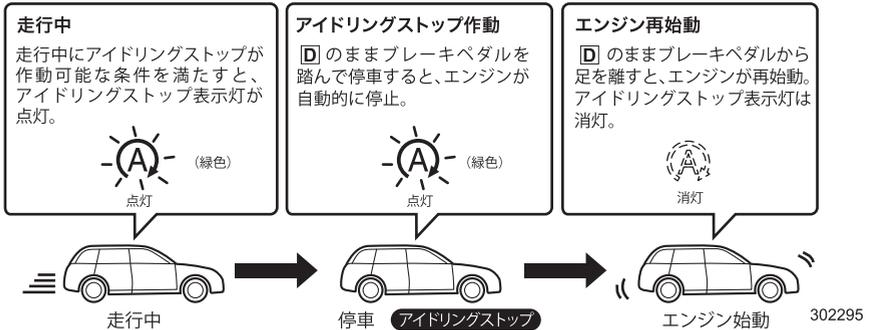
🏠 アドバイス

- エンジン冷間時は、S#(スポーツシャープモード)への切り替えができません。この場合、ブザーが鳴り、切り替えができないことを運転者に知らせます。
- S#(スポーツシャープモード)にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S(スポーツモード)になります。
- S(スポーツモード)またはI(インテリジェントモード)でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入ってもS(スポーツモード)になります。この場合、S#(スポーツシャープモード)またはI(インテリジェントモード)への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#(スポーツシャープモード)への切り替えができません。S#(スポーツシャープモード)で走行している場合は、S(スポーツモード)になります。

アイドリングストップ

アイドリングストップ (オートスタートストップ)

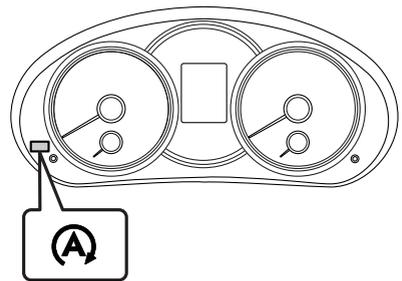
アイドリングストップとは、エンジン暖機後に運転中の信号待ちや渋滞などで車両が停止しているとき、燃費向上・排ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、ブレーキ操作によってエンジンを自動停止させる機能です。また、ブレーキの解除によってエンジンを自動再始動させます。



エンジン始動後、走行せずにアイドリングを続けた場合、アイドリングストップは作動しません。また、停車中にアイドリングストップ・再始動を繰り返すこともありません。アイドリングストップは短時間のアイドリング時にエンジンを自動で停止・再始動させる機能です。長時間の駐車時はエンジンスイッチをOFFにしてください。

■アイドリングストップの作動

セレクトレバーがⓓで走行中、アイドリングストップが作動する条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。



302317

ブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップが作動し、エンジンが停止します。エンジン停止中、アイドリングストップ表示灯は点灯し続けます。

ⓓのままブレーキペダルから足を離すと自動でエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。走行中に再度アイドリングストップする条件を満たすと、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

運転するとき

●アイドリングストップの作動条件

次の場合、アイドリングストップは作動可能になります。

- エンジンが十分に暖機されている
- 全てのドア（リヤゲートを含む）が閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- デフロスタースイッチがOFF
- リヤウインドウデフォグスイッチがOFF
- ハザードランプスイッチがOFF
- 方向指示器レバーを操作していない※

※ カスタマイズの設定により作動条件は異なります。

☆1-2ページ参照

停車後、次の条件を満たすとアイドリングストップが作動します。

- ハンドルが直進状態のとき
- ハンドルを操作していない



アドバイス

- 次の場合は停車後、アイドリングストップが作動しないことがあります。
 - － 急な坂道で停車したとき
 - － 急ブレーキをかけて停止したとき
 - － ブレーキブースターの負圧が充分でないとき
- 停車時、アイドリングストップが作動せずにアイドリングストップ表示灯が消灯したときは、ブレーキペダルの踏み込みが弱い場合があります。ブレーキペダルをもう少し強く踏んでください。
- 次の場合、アイドリングストップするまで時間がかかるときがあります。
 - － 車を長期間使用しなかった場合などにより、バッテリーが放電したとき
 - － 外気温が高いとき、または低いとき
 - － バッテリー交換などにより、バッテリー端子を再接続したとき

●アイドリングストップが作動しない条件

次のいずれかの場合、アイドリングストップは作動しません。

- アイドリングストップ警告灯/アイドリングストップOFF表示灯（黄色）が点灯または点滅している
- エンジン警告灯が点灯している
- ボンネットが開いている
- 標高約1500m以上のとき
- 外気温が約-10℃以下のとき
- トランスミッションフルードの油温が低いまたは、高いとき
- バッテリー状態が良好でない
- エアコン使用時、エアコンの設定温度と車内の温度の差が大きいとき



アドバイス

エンジン警告灯など、メーター内の警告灯が点灯・点滅している場合、アイドリングストップが作動しないことがあります。

●アイドリングストップの自動解除

次の操作を行うとアイドリングストップの作動が自動的に解除され、ブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが再始動します。

- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
- ブレーキペダルをすばやく踏み増したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを[R]にしたとき
- ハンドル操作をしたとき
- デフロスタースイッチをONにしたとき
- リヤウインドウデフォグスイッチをONにしたとき
- ハザードランプスイッチをONにしたとき
- 方向指示器を操作したとき※

※ カスタマイズの設定により作動条件は異なります。

☆1-2ページ参照

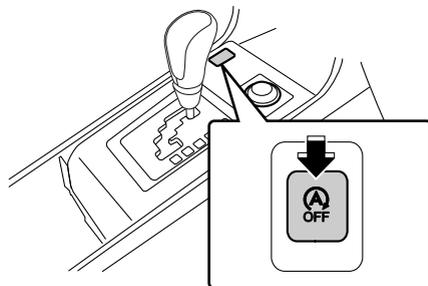
🏠 アドバイス

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルが硬く感じる場合がありますが、異常ではありません。
- アイドリングストップ中、次の状態になるとブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動します。
 - － 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
 - － バッテリーの放電が進んだとき
 - － ブレーキブースターの負圧が低下したとき
- 次のときはエンジン停止時間が短くなることがあります。
 - － 外気温が高いとき、または低いとき（エアコンが設定温度を維持できなくなるため）
 - － 電装品などの消費電力が多いとき
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。

■アイドリングストップの作動をOFFにするとき

アイドリングストップOFFスイッチを押すとアイドリングストップが作動停止状態となり、メーター内のアイドリングストップOFF表示灯（黄色）が点灯します。もう一度スイッチを押し続けるとアイドリングストップが作動可能な状態になり、アイドリングストップOFF表示灯が消灯します。

アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンが再始動します。



302358

🏠 アドバイス

- アイドリングストップ作動停止状態でエンジンスイッチをOFFした場合、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動可能な状態に戻ります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

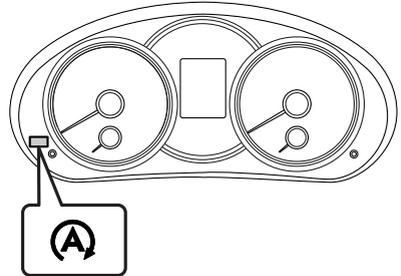
■アイドリングストップ表示灯（緑色）

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

▼点灯するとき

アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。

エンジンが再始動すると消灯します。



302317

■アイドリングストップ警告灯 / アイドリングストップOFF表示灯（黄色）

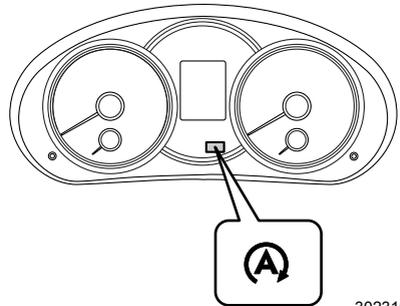
エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

●アイドリングストップ警告灯

アイドリングストップシステムに異常があるとき、点滅します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

●アイドリングストップOFF表示灯

アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。



302319

運転するとき

⚠ 注意

エンジン始動後にアイドリングストップ警告灯/アイドリングストップOFF表示灯が消灯しないまたは、アイドリングストップOFFスイッチを押しても点灯・消灯が切り替わらない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■アイドリングストップ警告ブザー

●ブザー（ピー、ピー）が鳴るとき

アイドリングストップ中に運転席以外のドアを開けるとブザーが鳴り、アイドリングストップ中であることを知らせます。ドアを閉めると停止します。

●ブザー（ピーー）が鳴るとき

アイドリングストップ中に次の操作を行うと安全を確保するため通常のエンジン停止状態になり、ブザーが鳴ります（メーター内の警告灯も点灯します）。この場合、セレクトレバーを[P]にして周囲の安全を確認してから通常の操作でエンジンを始動するか、エンジンスイッチをOFFにするまでブザーは鳴り続けます。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアをあけたとき）
- 運転席以外のドアを開けたまま、放置したりブレーキペダルから足を離したとき

■バッテリー

アイドリングストップ装備車は、高性能な専用バッテリーを使用しています。バッテリーを交換するときは、スバル純正のアイドリングストップ専用バッテリーに交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。



アドバイス

バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD車（二輪駆動）より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

☆5-2ページ参照

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-19ページ参照

VTD-AWD

5速オートマチック車の機構です。

VTD-AWD※を採用しています。走行状態、路面状況に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

※VTD：Variable Torque Distribution（不等&可変トルク配分電子制御システム）

アクティブトルクスプリットAWD

CVT車の機構です。

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

クルーズコントロール

クルーズコントロール

クルーズコントロール（自動定速走行装置）は、アクセルペダルを踏まなくても約40～100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる機能です。



警告

次のような道路では危険ですので使用しないでください。

- 交通量が多く、車間距離が充分に取れない道路
- 急な下り坂や急カーブが多い道路
- 凍結、積雪などで滑りやすい道路
- けん引のとき



注意

エンジン警告灯が点灯すると、同時にクルーズコントロール表示灯も点滅します。高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



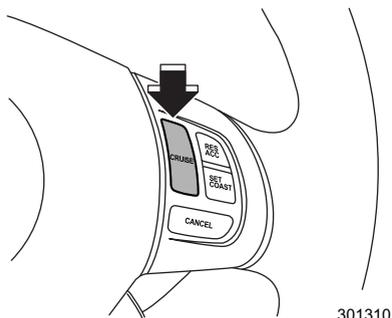
アドバイス

- 上り坂や下り坂では勾配、積載量により、一定車速を保てない場合があります。
- CRUISEスイッチを押してもクルーズコントロール表示灯が点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■CRUISEスイッチ

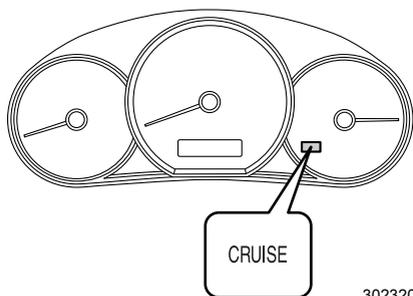
▼作動するとき

CRUISE スイッチを押すとクルーズコントロールが作動可能になります。クルーズコントロール表示灯が点灯します。



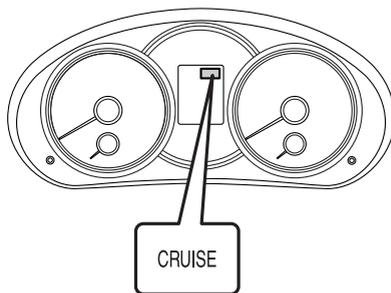
301310

タイプAメーター



302320

タイプBメーター



301655

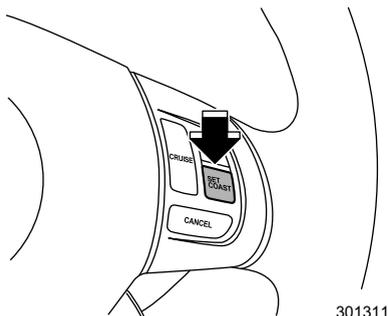
▼停止するとき

スイッチをもう一度押します。(表示灯消灯)

エンジンスイッチを OFF (LOCK) または Acc にすると、クルーズコントロールの作動は自動的に停止します。

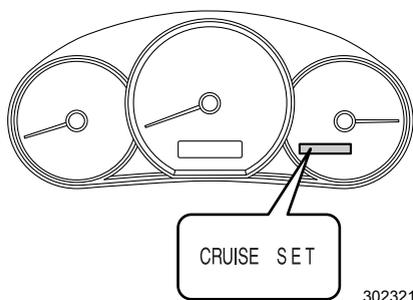
■速度をセットするとき

- ① CRUISE スイッチを押して作動可能にします。
- ② アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
- ③ 希望する速度になったとき SET/COASTスイッチを押すと速度が設定されます。
自動定速走行になると、メーター内にクルーズコントロール車速セット表示灯が点灯します。



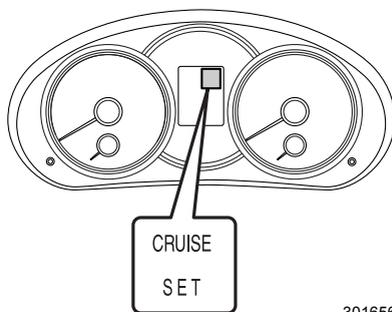
301311

タイプAメーター



302321

タイプBメーター

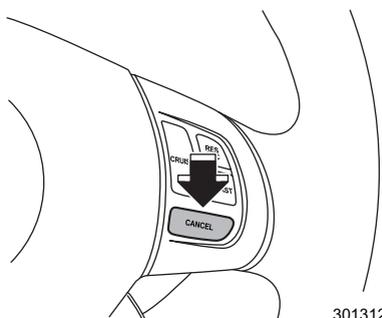


301656

■一時解除

次の場合は自動定速走行が一時的に解除されます。メーター内のクルーズコントロール車速セット表示灯も消灯します。

- CANCELスイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき



301312

■一時解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合は、車速32km/h以上で走行しているときにRES/ACCスイッチを押します。（メーター表示部が再びセット状態の表示になります）

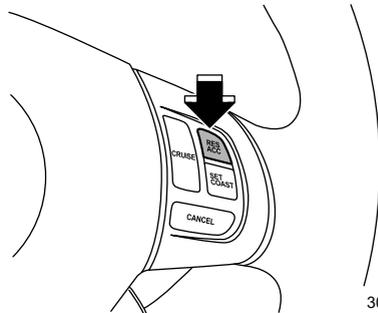
🏠 アドバイス

- 復帰できるのは速度が32 km/h以上のときのみです。
- スイッチを押し続けても最初に設定した速度以上にはなりません。設定した速度を変えたい場合は、復帰操作が終了した後に速度をセットし直してください。
- 速度が32 km/h以下になったときは速度メモリーが消去され、復帰操作はできません。
- 一時解除後、速度が32 km/h以下になった場合は再度セットし直してください。

■セット車速を上げるとき

●RES/ACCスイッチによる方法

- RES/ACCスイッチを1回ずつ押す
押す毎にセット車速が1km/h ずつ上がります。
- RES/ACCスイッチを押し続ける
長く押すと、押ししている間だけ加速します。スイッチを離れたときの車速にセットされます。



301313

●アクセルペダルによる方法

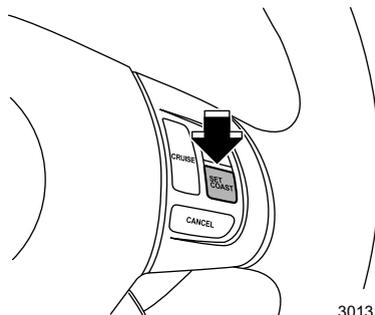
アクセルペダルを踏み、速度を上げます。

希望の速度になったらSET/COASTスイッチを押します。スイッチを離れたときの車速で再セットされます。

■セット車速を下げるとき

●SET/COASTスイッチによる方法

- SET/COASTスイッチを1回ずつ押す
押す毎にセット車速が1km/h ずつ下がります。
- SET/COASTスイッチを押し続ける
長く押すと、押ししている間だけ減速します。スイッチを離れたときの車速にセットされます。



301311

●ブレーキペダルによる方法

ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。(クルーズコントロールが解除されます。)

希望の速度になったらSET/COASTスイッチを押します。

■一時的に加速したいとき

追越しなどで加速したいときはアクセルペダルを踏み込みます。
アクセルペダルから足を離すと設定した速度まで自動的に戻り、定速走行を続けます。

アドバイス

操作スイッチでの急加速はできません。

■一時的に減速したいとき

減速するときはブレーキペダルを踏みます。設定した速度に戻すときは一時解除の復帰操作をします。

☆3-68ページ参照

アドバイス

- 操作スイッチでの急減速はできません。
- 下り坂ではマニュアルモードによるエンジンブレーキを併用してください。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなる場合があります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

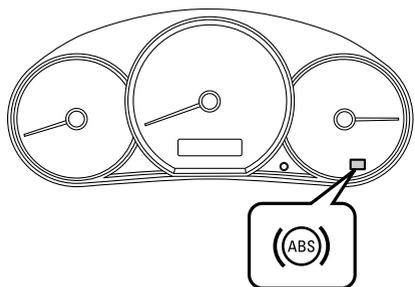
■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - － エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

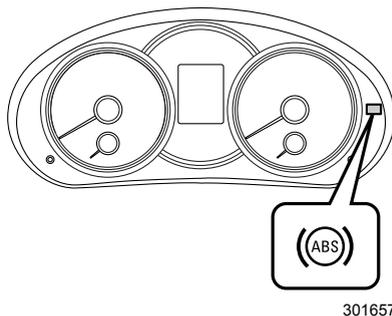
■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

タイプAメーター



タイプBメーター



⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしては作動しません)

🏠 アドバイス

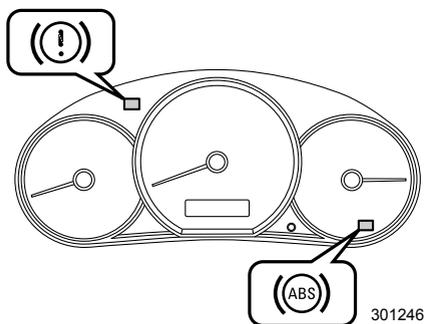
警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない

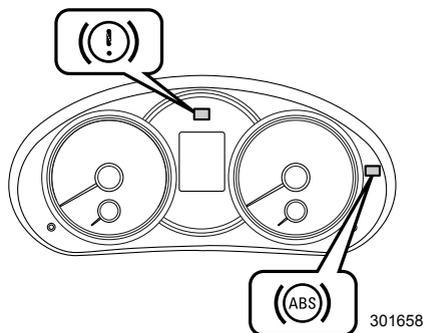
● エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

タイプAメーター



タイプBメーター



⚠️ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキが完全に解除されていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-31ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

アドバイス

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキオーバーライド❖

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。

警告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

注意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

 **アドバイス**

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。その際、ABSが通常より早く効くことがあります。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、コクッと音が聞こえることがあります。

VDC

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。

■VDCの主な機能

●トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点灯します。

☆3-78ページ参照

●横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-78ページ参照

注意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください。

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装着するときは、5-2ページの記載事項をお守りください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記項目をお守りください。
 - ー 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

- VDC 装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スベアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8-6ページ参照



アドバイス

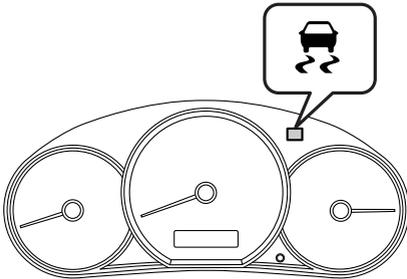
- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スベアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-19、7-7ページ参照

■VDC作動表示灯

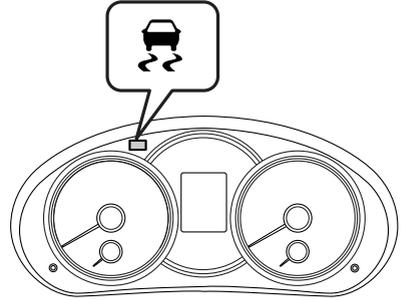
エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
VDC機能作動時は点滅し、TCS機能作動時は点灯します。

タイプAメーター



301679

タイプBメーター



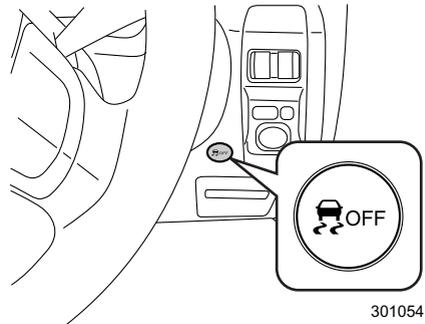
301659

■VDC OFFスイッチ

VDC OFFスイッチを押すとVDCが解除されます。

下記のような特殊な状況下において、VDCを一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- むかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。



301054

VDCが解除されるとメーター内のVDC OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度VDC OFFスイッチを押します。

<EyeSight装備車>

VDCを解除すると、EyeSightの機能が停止します。

☆「EyeSight取扱説明書」参照

⚠ 注意

VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。必要なとき以外は、VDCを解除しないでください。また、VDCを解除したときは、路面状態に応じた安全な速度で慎重な運転を心がけてください。

🏠 アドバイス

- VDC を解除しても一部のブレーキ制御は作動します。その場合、VDC 作動表示灯は点滅します。
- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。この場合は、一度エンジンスイッチをLOCK (OFF) またはAccにし、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動するとVDCは自動的に作動可能状態になります。

■ VDC警告灯/VDC OFF表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

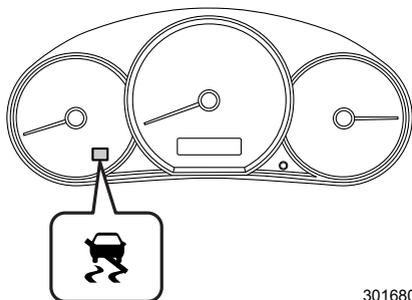
● VDC警告灯

エンジン回転中、VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

● VDC OFF表示灯

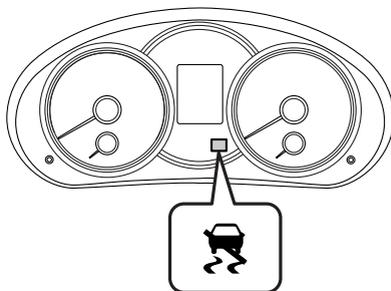
VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したときに点灯します。

タイプAメーター



301680

タイプBメーター



301660


注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチをONにしても点灯しない
 - － エンジン始動後、数分たっても消灯しない
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。

上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。


アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

レビューカメラ

レビューカメラはエンジンスイッチがONのとき、セレクトレバーを[R]にすると自動的に車両後方の映像をモニターに映し出す装置です。

警告

- リビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- モニターに映し出される映像の範囲には限界がありますので、直接目視やミラーで後方および周囲の安全を確認し、ゆっくりと後退してください。モニターのみで確認し後退すると、車をぶついたり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造しないでください。万一煙が出たり変なにおいがした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。

注意

- 高圧洗車機を使用して洗車する場合には、カメラ周辺部に直接水をかけないでください。レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えないでください。故障や火災、感電の原因となります。
- カメラに泥や雪などが付着して泥が固まったり、凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や氷を落とすと、破損して火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭きとってください。
- カメラや配線類に火気を近づけないでください。破損や発火の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

- バッテリーまたはヒューズを交換した後に、“このナビを以前使用されていた車から新しい車へのせかえされましたか？”というメッセージが出る場合があります。ナビを他車から交換していない場合は、必ず“いいえ”を選択してください。正しい距離・車幅マーカ（補助線）が表示されなくなる場合があります。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、うすめた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布で拭きをしてください。

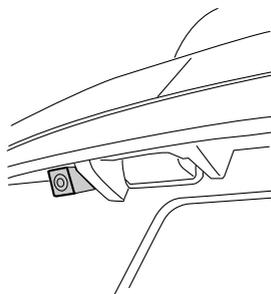
次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水でうすめた中性洗剤を含ませワックスを落としてください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしていますが、ボディ洗車する場合やレンズを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
- レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。リヤビューカメラの映像が見づらくなることがあります。
- レンズに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 蛍光灯などの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- リヤビューカメラの映像は実際の色味とは多少異なることがあります。

リヤビューカメラの位置

番号表示灯（ライセンスランプ）の横にあります。



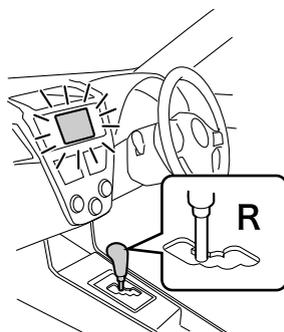
301314

リヤビューカメラの使用方法

■リヤビューカメラの映像を見るには

リヤビューカメラは、セレクトレバーを[R]にすると自動的に車両後方の映像を表示します。[R]以外にすると、切り替わる前の画面表示になります。

- ① 車両のエンジンスイッチをONにする。
- ② セレクトレバーを[R]に入れる。



301324



アドバイス

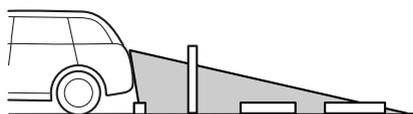
- リヤビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。(ただし、ナビゲーションシステムが起動中は映像は映し出されません。)
- リヤビューカメラの映像は、車両のバックミラーやサイドミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
- 次のような場合には、リヤビューカメラの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
 - － 暗いところ（夜間、トンネルなど）
 - － カメラ付近が極端に熱いとき、または寒いとき
 - － カメラのレンズが汚れているとき
 - － 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線など影響が出る事があります）
 - － レンズに水滴がついたとき、または湿度が高いとき（雨天時など）

画面に映る範囲

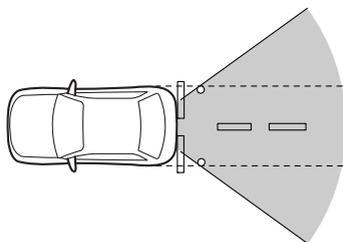
■画面に映る範囲

- バンパー後端から車の後方が映ります。ただしバンパー両端付近やバンパーの下にある物は、映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。障害物の上部に突起などがある場合、画面上では確認できません。
- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。

映し出される範囲

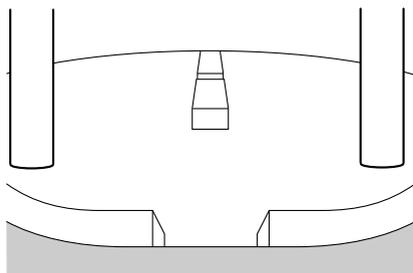


301776



301777

カメラからの映像



401097

⚠ 注意

リヤビューカメラの映し出す範囲には限界があります。必ず直接目で確認しながら後退してください。

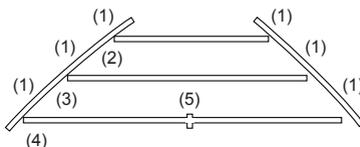
距離・車幅マーカー（補助線）

距離・車幅マーカー（補助線）は、実際の距離と画面で見ている感覚を補助するための目安です。

セレクトレバーを **R** に入れるとモニターに後方の映像とともに、距離・車幅マーカーが表示されます。

- (1)車幅線（斜め縦線）
- (2)バンパーから約2m（横線）
- (3)バンパーから約1m（横線）
- (4)バンパーから約0.5m（横線）
- (5)バンパーから約0.5mと車両中心を示す十字線

後退時は、直接後方を確認しながら運転して下さい



車両周辺を直接確認して下さい

301677

注意

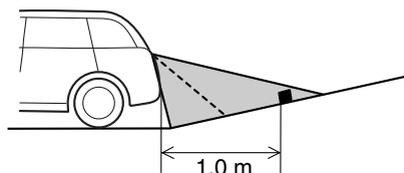
- 後退時は、距離マーカーに頼らず直接目で確認してください。
- 実際の位置と距離マーカーの指示が異なる場合があります。
- 搭乗人数や積載状態によってズレが生じます。
- 坂道や車両が路面に対して傾いている場合には、実際の位置とズレが生じます。

■画面と実際の路面との誤差

距離マーカーは車両に積載がない状態での水平な路面に対しての距離を示しています。積載状況、路面状態などにより実際の距離と異なる場合があります。

●後方に上り坂がある場合

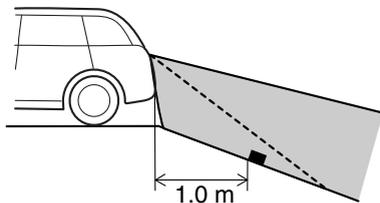
実際の距離より、画面上の距離のほうが遠くにあるように見えます。



301778

●後方に下り坂がある場合

実際の距離より、画面上の距離のほうが近くにあるように見えます。



301779



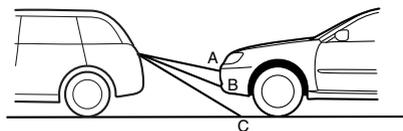
アドバイス

積載時は、後方が上り坂と同じように実際の距離より遠くにあるように見えます。

●距離マーカーの特性

距離マーカーは、路面上の距離を映し出すため、立体的な物体が後方にある場合、正しい距離表示ができません。

- A 2m表示ライン
- B 1m表示ライン
- C 0.5m表示ライン



301780

故障かなと思ったら

■リヤビューカメラの映像が映らない

セレクトレバーは[R]になっていますか？

■リヤビューカメラの映像の映りが悪い

- レンズが汚れていませんか？
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドランプの光が直接レンズにあたっていないですか？

■距離・車幅マーカ（補助線）が表示されない

詳しくはスバル販売店にご相談ください。

ハンドル

パワーステアリング



アドバイス

- 油圧パワーステアリング装備車は、ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音に変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱい切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。

極低温時はオイルが硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

- 電動パワーステアリング装備車は、エンジン始動後約2秒後にパワーステアリングが作動します。

車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を長く続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。

これはコンピューターやモーターが過熱することを防止するためにシステムの作動を制限している現象で、異常ではありません。

しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。